様式１

令和６年度学長戦略経費（研究プロジェクト）実績報告書（研究実績）

１　研究課題名

国語教育における ICT、主にデジタル教科書を活用した効果的な授業モデルの構築

２　研究代表者

旭川校・教授・大橋賢一

３　研究分担者・研究協力者

渥美伸彦　准教授（研究分担者） 長谷川範彰　准教授（研究分担者） 西内沙恵　講師（研究分担者） 〔附属学校・高等学校教員〕 福西晟歩　附属旭川小学校教諭（研究分担者） 小玉光朗　附属旭川小学校教諭（研究分担者） 嶋田善行　附属旭川中学校教諭（研究分担者） 永井悦美　附属旭川中学校教諭（研究分担者） 鈴木　瞬　附属旭川中学校教諭（研究分担者） 佐々木千紘　旭川藤星高等学校教諭（研究協力者）

４　令和６年度研究計画の達成度

■a 計画とおり達成した □ b 概ね達成した □ c あまり達成できなかった □ d 全く達成できなかった

【c 又は d を選択した場合の理由や問題点】

５　学術的成果

【論文投稿】

1　渥美伸彦 (2024)「国語科における ICT 活用指導力の向上に資する授業の検討－教員養成大学における国語科授業研究の展開－」『月刊国語教育研究』（2024/3/10）8 頁 →昨年度の国語科教育学演習Ⅱの取組。「研究論文」として採択されている。ただし、編集の都合上半年くらい後の雑誌に掲載されるとのこと。 2　永森篤・渥美伸彦（2023）「可視化の組合せと振り返りの機能を生かした話し合い学習指導の実践研究」『旭川国文』36：10-17

3　西内沙恵（2023）「小学５年生を対象とした辞書に親しむ授業の実践報告－紙の辞書とウェブの辞書の差異－」『旭川国文』36: 1-9
4　大橋賢一／佐々木千紘（2025）「言語文化「唐詩の世界」の実践報告」『新しい漢字漢文教育』第 75 号:124-133
5　大橋賢一（2025)「シンポジウム　教材としての杜甫」シンポジウム概要・国語教材としての杜甫の古体詩、杜甫研究年報第８号（予定）

【書籍出版】

【学会発表】

1　大橋賢一／佐々木千紘「言語文化「唐詩の世界」の実践報告」(2024 年度全国漢文教育学会大会 2024/07/13)
2　大橋賢一「シンポジウム：教材としての杜甫の詩・杜甫の古体詩」（2024 年度全国杜甫学会大会 2024/09/06)
3　西内沙恵・西川竜矢・嶋田善行・大橋賢一「紙とデジタルの違いが書く活動に及ぼす影響：漢字・熟語・慣用表現・四字熟語を対象に」（言語処理学会第 31 回年次大会(NLP2025)2025/03/11)

【その他】

●渥美伸彦「令和６年度国語科教育学演習Ｉにおける授業研究の推進」→本年度は昨年度の取組を改善し、「デジタル教科書」を軸とした授業研究を行っている。

６　実践的成果

【教材】

【評価方法】

【指導（授業）案】

【教育方法】

【その他】

７　その他、研究実施状況

８　使用者や研究協力先等から受けたアドバイス等

○令和６年７月 12 日（月）全国漢文教育学会　於北海道教育大学附属旭川小学校で、(6 年 2 組）福西晟歩教諭が漢字に関する ICT を活用した研究授業を行った。その後の研究討議において、ICT の活用についてもいくつか意見がだされ、インターネットを通じて漢字を調べることと、漢和辞典を使って漢字を調べることの双方の長所・短所をわきまえて活用することの重要性が強調された。そうしたことを踏まえて、ICT の活用した漢字指導の授業改善を検討し続けている。 ○令和６年 12 月 2 日(月)於附小校内研究授業（6 年 2 組）福西晟歩教諭などにおいて、以下の様な知見を得た。デジタル教科書や ICT の授業における活用は、学習者である児童生徒の学び方や特性等によっても、その効果が異なってくる。例えば、ある学習者はデジタル教科書を読みながら学習に取り組んでいるが、別の学習者は紙の教科書を読んでいるというような状況が発生する。つまり、デジタルやアナログという媒体の性格や、学習の狙いだけではなく、学習者の学び方や特性等も考慮に入れて考えていくことが重要だということである。このような状況を踏まえ、デジタルを必ず用いなければならないという学習活動のつくりから、学習者によってデジタルかアナログかを選択する時間と場面を保障することとした。(デジタルの目的化から脱却し、デジタルとアナログの効果的な選択を保障する実践研究へと展開している。)